

豚肉の高品質化と繁殖成績向上が 発展の条件と考える一貫経営

～ 6次産業への挑戦～

宮崎県児湯郡川南町
山道義孝

川南町の位置

宮崎県川南町の概要

人口(H17) : 17,323人

耕地面積(H18) : 3,738ha

農家総数(H17) : 1,224人

農業産出額(H18) : 207億円

全国から開拓者が集まる
……「川南合衆国」



川南町

宮崎市

川南町の農業

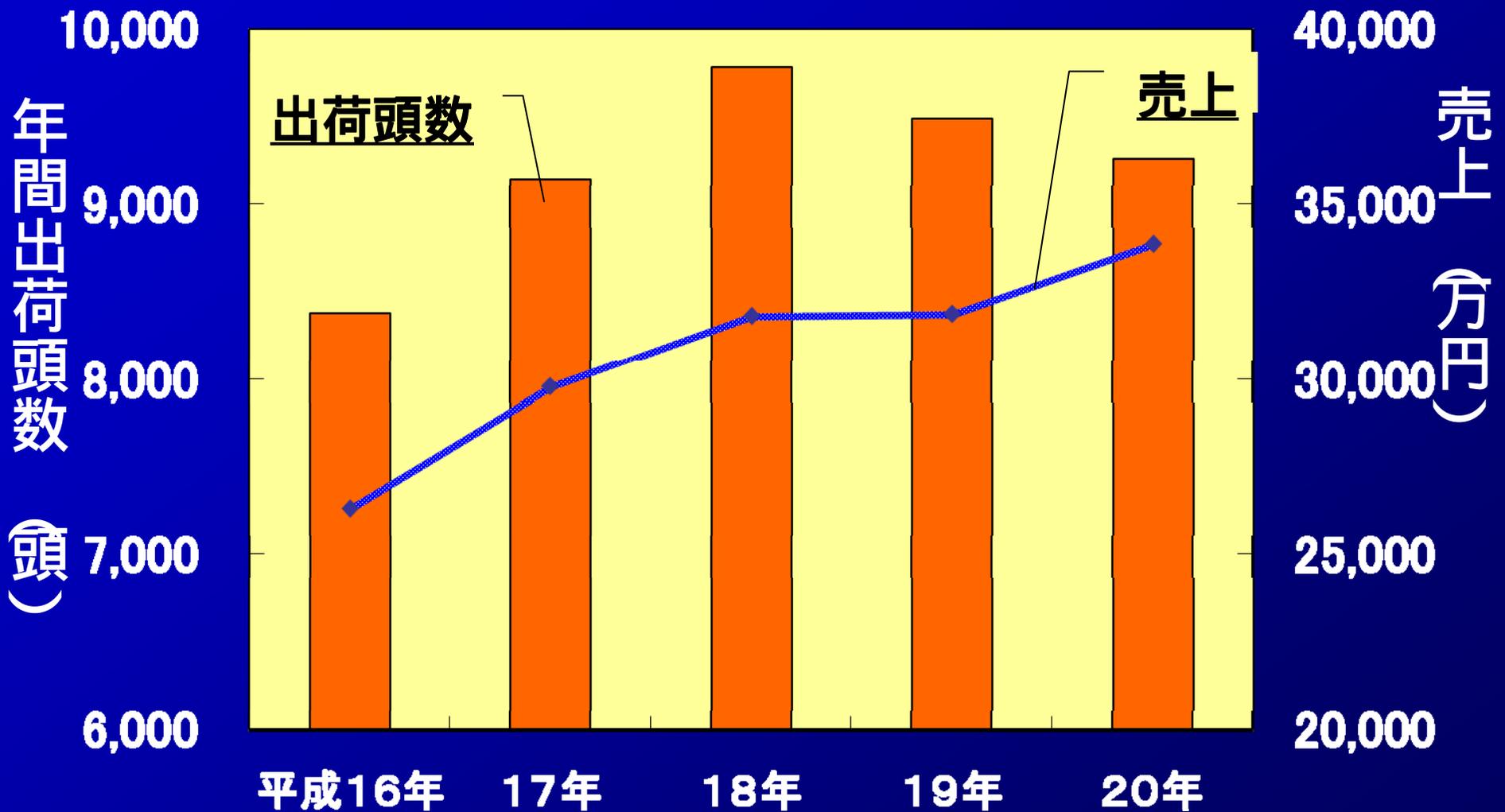
畜産が盛んで、特に養豚は県有数の産出額

	農業産出額(億円)	構成比
豚	73	(35%)
野菜	26	(12%)
肉用牛	25	(12%)
採卵鶏	23	(11%)
ブロイラー	17	(8%)
その他	43	(20%)
合計	207	(100%)

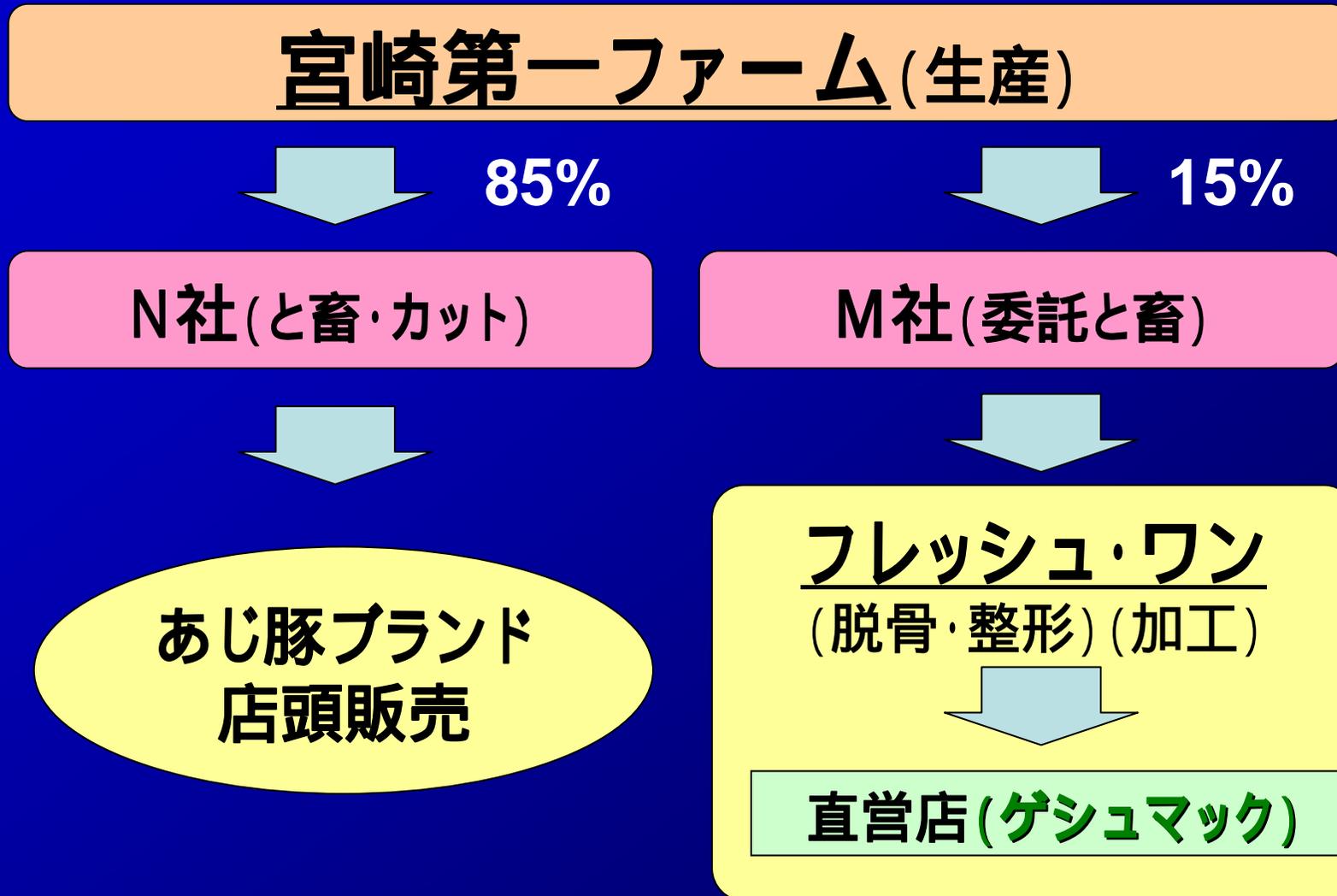
経営概況 (H20年)

1次部門(養豚)	2・3次部門(加工・販売)
(有)宮崎第一ファーム (S47年2月設立)	(株)フレッシュ・ワン (H元年11月設立)
代表取締役	山道 義孝
飼養規模 母豚頭数 372頭 肉豚頭数(常時)4,000頭 年間出荷頭数 8,752頭	直営店舗「ゲシュマック」 販売スペース ・精肉販売(銘柄:あじ豚) ・加工品販売(50種類) レストランスペース 加工工場

出荷頭数と売上げの推移



販売経路



これまでの歩み

S 4 2 年 高校卒業後埼玉県にて研修

S 4 4 年 母豚7頭から養豚経営開始

S 4 7 年 (有)宮崎第一ファーム設立

S 6 3 年頃 「あじ豚」の開発着手

H 元 年 (株)フレッシュ・ワン設立

H 1 2 年 規模拡大(450頭目標)

H 1 6 年 基礎母豚の改善

H 1 8 年 ゲシュマックオープン

H 1 9 年 「あじ豚」商標登録

これまでの歩み

S 4 2 年 高校卒業後埼玉県にて研修

S 4 4 年 母豚7頭から養豚経営開始

S 4 7 年 (有)宮崎第一ファーム設立

S 6 3 年頃 「あじ豚」の開発着手

H 元 年 (株)フレッシュ・ワン設立

H 1 2 年 規模拡大(450頭目標)

H 1 6 年 基礎母豚の改善

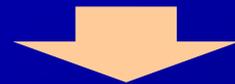
H 1 8 年 ゲシュマックオープン

H 1 9 年 「あじ豚」商標登録

輸入自由化で安い輸入豚肉との競争



規模拡大で低コスト化



美味しい豚肉で差別化



テーブルミート
(食卓に上る食肉)
として生き残る道

これまでの歩み

S 4 2 年 高校卒業後埼玉県にて研修

S 4 4 年 母豚7頭から養豚経営開始

S 4 7 年 (有)宮崎第一ファーム設立

S 6 3 年頃 「あじ豚」の開発着手

H元年 (株)フレッシュ・ワン設立

H 1 2 年 規模拡大(450頭目標)

H 1 6 年 基礎母豚の改善

H 1 8 年 ゲシュマックオープン

H 1 9 年 「あじ豚」商標登録

あじ豚グループの組織化

「どこを切っても金太郎飴」を合い言葉



川南町内外の6つの農場がグループ化
(種豚・管理の統一、飼料の一括購入)

年間**23,000頭**の出荷実績

枝肉販売価格の
交渉力を強化
年間統一価格での販売



あじ豚生産グループ

これまでの歩み

S 4 2 年 高校卒業後埼玉県にて研修

S 4 4 年 母豚7頭から養豚経営開始

S 4 7 年 (有)宮崎第一ファーム設立

S 6 3 年頃 「あじ豚」の開発着手

H 元 年 (株)フレッシュ・ワン設立

H 1 2 年 規模拡大(450頭目標)

H 1 6 年 基礎母豚の改善

H 1 8 年 ゲシュマックオープン

H 1 9 年 「あじ豚」商標登録

(H11年)
長男の
経営参画

飼育規模の改善

飼養密度の
高まり
(450頭規模)

飼養トラブルの発生

飼養規模
の見直し

母豚380頭
規模へ



S P F 豚へ種豚の切り替え

母豚(WL)生産の外部委託

・グループ内農場と基礎豚生産契約

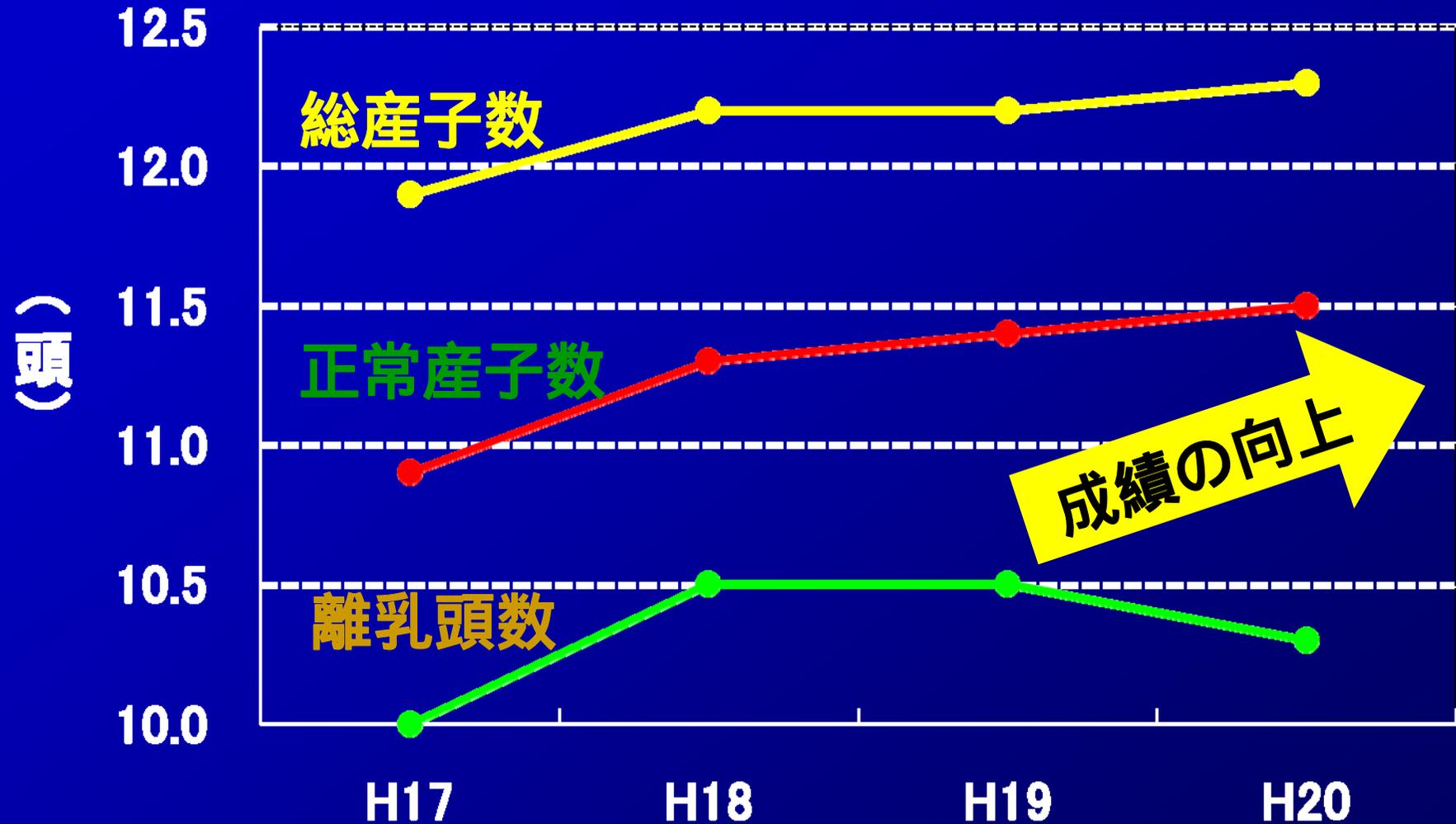
(S P F 豚とは・・特定の病原体を持たない豚)

人工授精技術
の向上



取組の結果

繁殖成績の向上



母豚1頭あたりの繁殖成績の推移

高品質化の追求・・・「あじ豚」への道

健康な豚肉づくり

契約管理獣医師による指導
(ワクチンを中心とした衛生プログラム)

種豚の統一(全頭SPF豚化)

肥育用素豚の改良・作出
(肉豚の品種組み合わせ W×L×D)

高品質化の追求・・・「あじ豚」への道

飼料の改善

仕上げに専用飼料を給与
マイロ、麦、キャッサバを主原料

焼酎もろみ生菌発酵飼料を給与
地元の焼酎メーカーから原料調達



- ・くせがなく、脂肪が白く良く締まる
- ・柔らかく、甘み・肉味を感じる



これまでの歩み

S 4 2 年 高校卒業後埼玉県にて研修

S 4 4 年 母豚7頭から養豚経営開始

S 4 7 年 (有)宮崎第一ファーム設立

S 6 3 年頃 「あじ豚」の開発着手

H 元 年 (株)フレッシュ・ワン設立

H 1 2 年 規模拡大(450頭目標)

H 1 6 年 基礎母豚の改善

H 1 8 年 ゲシュマックオープン

H 1 9 年 「あじ豚」商標登録

(H14年)
三男の
経営参画

農場近くを開店した「ゲシュマック」



ゲシュマック全景



ゲシュマック

精肉・加工(2次)、販売(3次)部門を担う

2
次



精肉・加工



3
次



店頭販売



レストラン

一貫経営による 6次(1次×2次×3次)産業化

宮崎第一ファーム

生産
(1次)



フレッシュ・ワン
(ゲシュマック)

加工・販売
(2次・3次)



売れる製品づくりに
フィードバック

顔の見える
店頭販売
ニーズ把握

農業・養豚の理解促進



調理体験教室



地元畜産物の理解促進



農業高校の出前研修



農業担い手の育成

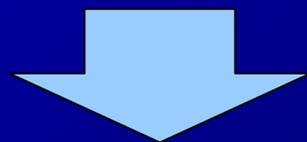
養豚業界への貢献

【県内】

**「みやざき養豚生産者協議会(MP C)」会長
(H15～20年)**

【全国】

**「日本養豚生産者協議会(J P P A)」宮崎県理事
(H18～20年)**



宮崎県の養豚振興に寄与

これからの経営

1 あじ豚ブランド力の向上

2 付加価値の向上

3 健康な豚の生産

4 資源循環型農業の推進





ご静聴ありがとうございました